

令和7年度 文化財防災訓練等実施状況報告

都道府県名

茨城県

行事名称	伝統的建造物群保存地区火災防ぎょ訓練・易操作性消火栓操作訓練（文化財防火デー）
実施期間・日時	令和8年1月18日（日）9：30～11：30
実施場所	桜川市真壁伝統的建造物群保存地区ほか
主催者	桜川市消防団、桜川消防署、桜川市、桜川市教育委員会

■実施内容

訓練の想定

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区内の神武天皇遥拝殿が放火により出火、建物が延焼し更に延焼拡大する恐れがあると想定。

訓練の内容

地元住民による火災発見、通報、初期消火訓練を実施。並行して住民対象に防災計画に関する講演会を開催。終演後、各地区の易操作性消火栓の操作について住民向けに訓練を実施。

参加者及び役割分担

大和地区住民（2名）：119番通報、初期消火 / 真壁地区住民（43名）：講演聴講・易操作性消火栓訓練
 桜川市消防団（40名）：放水訓練、易操作性消火栓訓練
 桜川市消防署（8名）：全体統括、放水訓練、講評
 桜川市教育委員会（5名）：現場立会
 桜川市都市整備課（6名）：現場立会、講演会運営
 桜川市防災課（5名）：現場立会
 桜川市文化財保護審議会（8名）：講評

特に工夫した点

伝統的建造物群保存地区の防災計画を策定中であることから、地区防災に関する講演会を同日に開催するとともに、火災の際に実際に使う各地区の易操作性消火栓を用いて訓練を実施した。

問題点・課題

地域住民の少子高齢化により消防団活動が厳しくなるなど、防災活動が難しくなり、消防団の再編を準備している。易操作性消火栓であっても、定期的に関栓していないとハンドルが固く高齢者では操作が出来ないことが分かった。

その他

毎年文化財防火デーにあわせて消防訓練を行うことで、地元消防団や地区住民の文化財愛護意識の高揚を図り、防災の必要性を確認する機会となっており、今後も継続して実施することが重要である。また、易操作性消火栓も長期間使わないと操作に支障が出るため、定期的な訓練や点検が必要である。

訓練風景

